

## 成田市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体第7回会議 議事録概要

### 1 開催日時

平成30年8月22日（水） 午後2時00分から午後3時30分

### 2 開催場所

成田市役所 議会棟 執行部控室

### 3 出席者

（委員）

西田委員、小林委員、佐藤委員、大木委員、西村委員、宮崎委員、高木委員、高橋委員、竹能氏（宮下委員代理）、沓掛委員、北村委員、以上11名  
（欠席：渡邊委員、石井委員、山根委員、野平委員、以上4名）

（事務局）

高田福祉部長

三橋介護保険課長

平岡主幹、太田主幹兼地域包括ケア推進係長、渡未副主幹、

社会福祉協議会地域福祉係武田係長

小野生活支援コーディネーター

西部南地域包括支援センター大麻管理者

### 4 会議次第

#### 1 開会

#### 2 福祉部長あいさつ

#### 3 議題

（1）生活支援コーディネーター活動報告及び提案

・買物アンケートの実施について

（2）市民フォーラムの開催について

（3）意見交換

#### 4 その他

#### 5 閉会

#### ●開会 介護保険課主幹兼係長

成田市ヘルパー連絡会会長の交代により大木委員から高木氏が就任した。

#### ●委員

よろしく申し上げます。

#### ●介護保険課主幹兼係長

成田市ケアマネジャー連絡会会長の交代により小山委員から宮下氏が就任した。本日は欠席だが、選出団体の同連絡会から竹能氏が代理で出席。委員 15 名中 11 名が出席により会議は成立した。本日の傍聴者はなし。渡邊委員、石井委員、山根委員、野平委員が欠席。

#### ●福祉部長挨拶

本協議体の役割は、市内各地域の特性を踏まえた必要な生活支援サービスの開発などを生活支援コーディネーターと情報共有しながら、順次構築していくことであり、今回の会議は、その生活支援対策のひとつである「買い物支援」について、具体的には「買物アンケート」の実施について、1つ目の議題としている。アンケートの内容および方法を小野 生活支援コーディネーターから提案してもらい、委員の意見等を頂戴し、実施に向けた準備を整えたい。

また、2つ目の議題は、包括的な生活支援体制づくりの重要性について市民に積極的に周知し、意識醸成を図る目的として、今後、開催を予定している「市民フォーラム」であり、委員から事前にいただいたアンケートを参考にさせていただき、具体的な実施に向けた議論をしていきたい。

#### ●委員長挨拶

具体的な活動内容である「買物アンケート」と「市民フォーラム」の企画を決定して準備を進めていきたい。多くのご意見をいただきながら進めていきたいのでご支援、ご協力をお願いしたい。

#### ●これより委員長が進行

議事に従って進めていく。最初に生活支援コーディネーター活動報告と買物アンケートの提案をしていただき最終決定までもっていききたい。

#### ●買い物調査の提案について（生活支援コーディネーター）

資料の「買物アンケート骨子」と「ご近所お買い物事情に関するアンケート」について報告。実施主体は協議体と成田市、協働が国際医療福祉大学となる。

高齢社会を迎え、買物に問題を抱える買物難民が社会問題になっており、将来さまざまな買物支援対策が必要になると考えている。この問題解決に向けた対応策を検討するにあたり、日常の買物に関する調査で現状を明らかにすることを目的とした。多くの高齢者の意見の中で、買物の行為が単に物を補充するという問題だけではなく、買物が楽しい、健康に繋がる、運動になる、出会いの場になるといった介護予防的付加価値を多くの高齢者が買物に対して持っていることが分かった。そのことから介護予防的視点を踏まえた調査にしたい。

アンケートの方向として、昨年実施したスーパーマーケットでの出口調査の結果から、行政の取組としてニーズの高かった、①買物支援事業について（ご

近所買物ツアー)、②移送サービスの見直し、の2点を主にアンケートを取っていききたい。政策化するにあたり、どの地区が優先的に必要か、どの年代が必要か、どのような形態の実施が望ましいかを探る。あわせて住民だけではなく、事業所にも今後アンケートを取っていききたい。

アンケート実施形態は対面式の聞き取り調査にしたい。項目数が多いので聞き取りで1人10分程度はかかる。対象者は独居の高齢者、要支援者、百歳体操参加者の3つの分類の方が対象となる。対象人数は独居高齢者1,393人を197名の民生委員が調査、要支援者767人を包括支援センターで約300人、市内のケアマネージャーで約400人を調査、百歳体操参加者36グループ370人を国際医療福祉大学の学生に協力をいただき調査したい。

実施期間は平成30年11月から12月の2ヶ月間を予定しており、アンケート集計等のアドバイスは国際医療福祉大学にお願いしたい。

スケジュールは8月22日(今日)協議体でアンケート用紙の最終決定をしていただきたい。今日午前中に成田市全体の民児協会長会議に協力を依頼し承諾を得、民生委員の協力が得られることとなった。8月24日に包括に依頼し、ケアマネージャーには8月29日の研修会時に協力依頼とアンケート用紙の配布を考えている。9月にはリストを作成し、10月には各民児協等にアンケート用紙配布と説明を予定し、11月と12月で調査実施したい。

調査の結果は、国際医療福祉大学の先生に協力を依頼し、ウェブでの入力を考えている。国際医療福祉大学の学生、一部のケアマネージャーに協力が得られればウェブ入力の協力を依頼したい。平成30年1月の買物調査部会(委員3名)で報告書を作成し、2月の協議体に報告。上申の必要性ある場合は3月に協議体が上申する。

アンケート用紙で説明。ご近所のお買物事情に関するアンケートについて具体的項目内容を説明した。無記名形式のため住所が特定できないので、「問1」で郵便番号を記入していただき地区を特定し、「問5」の買物に行く所につなげる。「問10」で買物の楽しみ、「問12」で「ご近所買い物ツアー」について聞く。「問16」からは移動手段について聞く。アンケート用紙数は高齢者約1,300人、要支援者約700人、百歳体操参加者約300人、トータル2,400部用意する予定である。アンケート調査を円滑に進めるため記入要領を、民生委員、包括・ケアマネージャー、学生向けを用意しているのでアンケート用紙と合わせて配布する。

#### ●委員長

記入要領(民生委員用)の注意点について簡単に説明してほしい。

#### ●生活支援コーディネーター

アンケート記入要領について、民生委員用で説明。「問1」は必ず郵便番号を

記入する。「問 5」は高齢者の行動範囲を割り出すための買物の距離。「問 9」と「問 10」は買物のイメージとして介護予防的視点から高齢者の買物に対する考えを聞く。「問 11」は店舗のサービスを具体的に説明していただきたい。「問 12」は山口県周南市の情報をもとに設問した。「問 22」は移動販売を実施しているスーパーはあるが、団地内に入れる許可がとれないために行けない団地等が多いと聞いているので、調査の際に情報を聞き取っていただきたい。

●委員長

今回のアンケートは、アンケートを取りながら各種情報を提供していくというような内容になっている。アンケートについて確認であるとか質問があればお願いしたい。

●委員

独居の方と要支援の方の百歳体操参加者であるなど、同じ人が重複してしまう場合はどうするのか。

○生活支援コーディネーター

一度アンケートに答えてもらったなら、そちらを優先し、次のものは答えなくていいことにする。

●委員

アンケート「問 1」の郵便番号、「問 5」の買い物に行く地区、「問 21」のかかりつけ医療機関の地区名は、高齢者の中には分からない方もいるのではないかな。

○生活支援コーディネーター

郵便番号や地区名が分からなければ、具体的なスーパー名や医療機関名を記入してもらうことで対応してほしい。

●委員

アンケートの内容が買い物サービスを提供する前提で作られているので、サービスに参加されない方がいた場合についてはどうか。

●委員長

「問 7」のように買い物に不便を感じないという設問にチェックがついていれば買い物サービスを必要としていないと考えられるが、アンケートそのものは進めていく。

●委員

宅配など業者との関係はどうなるのか。オンデマンドを始めた時には、業者とずいぶん議論をした。

●委員長

提言した後にどのようなすり合わせをしていくか具体的に考えていくことになる。

●委員

「問 16」の移動手段についての質問ですが、買い物への移動手段と医療機関への移動手段は異なる場合が多いので、質問の内容を分けた方がよいのではないか。また、「問 8」の文言について「②家族の協力がないと、無理。」ではなく、「②家族の協力が必要」に変更すべきである。

●委員

買い物のアンケートなのに、「問 18」からは移動手段についてになっている。アンケートの流れが「問 15」まで買い物に関する質問だが、「問 16」からは移動手段や医療機関の質問等、買い物に関する質問から離れた内容になっているので、タイトルの見直しを検討すべきではないか。

●委員長

アンケートの目的には、移送サービスの見直しなど移動手段について含まれるので、タイトルを変えて 2 つの内容を聞くアンケートにする。

●委員

「問 6」良く買う食材について、要領では「お惣菜の活用は年代により違います」とあるが、惣菜を使うか否かにした方がよいのではないか。聞くほうが時間をとられてしまうのではないか。

○生活支援コーディネーター

60～70 代だと惣菜は買わない。若い世代と 80 代以上になると惣菜を使う傾向がある。年齢によって違う傾向があり、その確認の意味と、惣菜以外に何を買っているかの確認をするという理由で項目に入れている。

●委員

「問 7」の「日常の買い物において、不便を感じているか。」という質問で不便を感じている方のみ、問 8「不便を感じる部分」に進むようにした方がよいのではないか。

●委員長

「問 8」の説明文に、問 7 で「不便を感じている」と答えた方にお聞きしますという文言を入れておく。

●委員

インターネットでの高齢者向けの買い物サービスが提供される日が近いと思われるため、このアンケートを行う必要があるのか。

●委員

アンケートをやることを前提としたうえで考えると、ネット販売などと違い、買い物に出かけることで体を動かしたり、人との交流があったりと、買い物だけではない付加価値を見い出せるものとなるのではないか。

●委員長

そのとおりである。市民フォーラムの趣旨の中にも健康づくり、地域づくりの第 1 層協議体であり、その政策の突破口として買い物アンケートから入っているという考えである。

●委員

そういったことがこのアンケートには網羅されているのか。買い物事情に関するアンケートではなく、全体のアンケートにしたほうが良いのではないか。

●委員長

設問はかなり網羅されているが、健康づくりまでは触れられないと思っているが、現状として、生の声は聞けると思う。それをどう活用するか、どのように政策に上げるか議論することが必要である。ここでの議論からアンケートのタイトルは変わるが、「案」をとって正式なものと決定し、いままでの意見を反映して今後説明会に臨んでいきたい。データがないことには、次のステップを踏めないで、しっかりと数字を出していきたい。

○生活支援コーディネーター

先ほど指摘のあった買い物と受診の移動手段は違うので別々に聞いたほうが良いということか。

●委員

買い物は 1 人で行けるが、受診は遠いので家族に頼むような場合、月に 1 回大きな病院に行くなどで、移動手段の問いが 1 つしかない、何の移動手段を書けば良いか、それにより生活圏が変わってくるのではないか。

「問 5」の「日頃の買い物はどちらの地区のお店に行きますか」では「誰と何を使って行きますか」にして「問 21」の「かかりつけ医療機関はどちらの地区ですか」の質問のあとに「誰と何を使って行きますか」とした方が良いのではないか。ニュータウン地区に住んでいる方でも、買い物は1人で行けるが、地区外の病院に行く場合、1人では行けないから娘に頼んだりする方がいる。

○生活支援コーディネーター

設問によって移動の質が違うということでしょうか。

●委員

そう思いました。

●委員

地区社協の方でこれに関することを何人かに聞いたところ、ちょっとした買い物は隣の奥さんの車に乗せてもらうが、大きな物を買うときは家族じゃないと頼めないとか、病院に行くときは家族、息子が来た時などに頼み買い物もしてくるなど、買い物の内容によっても違うような話をしていた。そういったことから、委員が言われたように分けられたら良いのではと思った。

●委員長

今回は大きく2つ、買い物と移動に分けること、「問 7」と「問 8」の関係と「問 8」の「②家族の協力」の部分の文言の修正をする。地区のところは横に手書きを入れるよう調査される方の説明でお願いしたい。アンケート項目の説明内容「問 6」の「お惣菜の活用は」は「食材の活用の年代が違う」という文言に修正する。

上記で決定したいと思う。アンケートなので詳細まで個別に網羅するのは難しいので、大枠で捉えて数字を出していく。数字の出し方に関しては見やすいようにいろいろな出し方を検討していく。

●生活支援コーディネーター活動報告について（生活支援コーディネーター）

平成 30 年度生活支援コーディネーターの活動実績（5 月～8 月）について報告。社会資源の調査として、幸手市のコミュニティーカフェ「元気スタンド・ぷリズム」の視察報告。「元気スタンド・ぷリズム」は、元スーパーの店長がお年寄りの憩いの場を作りたいとの思いから脱サラして設立。幸手市の大きなゴーストタウンに近いURの空き店舗を活用。設立から 10 年が経ち、カフェではなく地域全体のコミュニティー活動に繋げている。事業内容はカフェだけではなく、惣菜と弁当の宅配や、空き店舗を活用しランドリーと風呂を設置。利用者の洗濯物を洗っている間に利用者がお風呂に入れるなど様々な提供をしてお

り、この発想が素晴らしいと感じた。活動のひとつに「地域まるごとアミューズメント」があり、地域情報の掲示板を設置して、地域の方々に情報提供している。このような活動が非常に良いと感じ、何かの時に成田市でも考えられたらと思い情報提供した。

続いて2ページ目の百歳体操サポーターの育成について。昨年度15人のサポーターが誕生しており、今年度から実際に体操指導を開始し元気に活動しているので報告する。

#### ●委員長より市民フォーラム（案）の開催について説明

趣旨や対象者に変わりはないが、成田市在住の方だけではなく成田市在勤の方も最初から入っていただき、一人でも多く、オンデマンド、移送サービスに関係のある方に参加してもらえるように広報を進めていく。2月2日（土）を予定しており、会場は保健福祉館若しくは赤坂ふれあいセンターで、多くの方に集まっていただけるようなところを選定したい。内容としては生活支援コーディネーターの活動や、今回の買い物支援、移送サービスの実情報告を中心に成田市での現状を報告してもらおう。それを受ける形で私の方で話題提供と、協議体の活動報告を行い、買い物支援を通して健康づくりやまちづくりの内容に繋げていく。

質疑応答の時間を十分に設けて、生の声を上げていただいて、それを拾っていけるような場にしたい。時間は80分程度あるが話は50分から60分以内にし、質疑応答は20分から30分の場にしたい。質問が出ない場合は、活動報告をもう少し詳しくするように準備して望みたい。この内容で現時点では考えているので、もしまだ時間があるのでご意見があれば伺いたい。

#### ●委員

市民参加があると後で良かったと思える意見が出てくるが、なかなか投げかけてもやりとりが難しいと思われるので、何か工夫が必要ではないか。

#### ●委員長

参加人数が去年は200人程度で、グループワークは大変なので、もう少し隣の人と体を動かしながら話ができるような雰囲気づくりに持っていきたい。検討材料の投げかけの文言を幾つか作りたい。市からの要望はあるか。

#### ○事務局

市としては、委員長に協議体全体の報告をお願いし、協議体の委員の方からも活動の報告をしてもらい、住民とのディスカッションをするのはどうかと考えている。市民の方々に成田市の現状、介護保険を取り巻く背景、生産年齢人口が減少していく中でどう助け合い、地域を支えていくのか、それには高齢者



の方々も担い手となっていただくこともある。市民の方々にフォーラムを通じて自分たちの地域をどうしたいかを含め一緒に考える場にしたい。

●委員長

活動というと、協議体での活動ではなくその団体での地域づくりやまちづくりの活動と言うことか。

○事務局

協議体としての活動については、今まで議論してきた中で、共通の地域の課題としては、買い物・居場所・見守りの3点が共通の課題として挙げられ、その中で生活支援コーディネーターがその内の1つの買い物・調査を実施しているので、これを報告していただくことになる。

協議体に各団体の方々に集まっていたいただいているところは、それぞれの活動や得意分野を活かし、意見や提案もいただきながら議論していくため。それぞれの団体との横の繋がりを考えながら成田市をどうしていくのか、団体の機能を最大限に発揮していただきながら、繋がりを持って地域をどのように考えていくかということで集まっていたいただいているのが協議体である。

●委員

世代を越えた地域の助け合いをこのフォーラムを通して出発点として考えていくことでよいか。

○事務局

生活支援コーディネーターが昨年度居場所づくり講座を3回開催、また、コーディネーターと地域包括支援センターが共同で、地区毎にワークショップを開催した実績がある。今後の取組としては、フォーラムのような市全体でのディスカッションと、ワークショップのような地域の方に寄り添った小規模な活動を並行して行うことが大事だと考えられる。この協議体も7回開催し、少しずつ方向性も見えてきている。

●委員

それでは、私どもがパネラーとして参加することになれば、これから短い期間で準備しなくてはならない。

○事務局

協議体自体や協議体の委員が所属する団体が、日頃、地域で行っている活動を知らない方が多いと思う。そのため、住民に近い立場の何人かの協議体委員の方に、活動を報告してもらってはどうか。地域の支え合いに向けてのポイン

トは、地域の活動を「見える化」することが大事で、地域でどんな支え合いが展開されているのか、取り組みを見える状態にしていく必要がある。住民の方の街づくりのイメージを膨らませて、共感を引き出し、「こんな街にしたい」という共感の輪を広げていくフォーラムになればと考えている。

#### ●委員

このアンケートをとることによって、市の方に質問が集中することが考えられるが、そうした場合、市は答えられるのか。

#### ○事務局

福祉部だけでなく、市民協働課や生涯学習など高齢者福祉に関わる他の部署と連携して回答すべき質問もあるかもしれないが、現段階で答えられる質問には答えていく。また、本年3月に策定した「第7期介護保険事業計画」に沿った事業内容については、説明が可能である。

#### ●委員長

協議体の活動ではこのように14団体の代表者と議論を進めており、買物支援やまちづくりに向けてフォーラムで話をする予定である。団体の活動内容の報告をするのか、それともトピックを含めて私がここでだいたい方向性が見えてきたなかで、サクセスストーリーのようなことを話し、その後自分たちの団体でもできていくというような展開を考えていたが。

#### ○事務局

団体の活動内容では、例えば、民児協・地区社協の関係では地域の見守りやサロン活動、ボランティア連絡協議会ではボランティア活動の報告、健康増進を含めた健康ボランティア、区の自治会が工夫を凝らして取り組む活動などがある。また、これまでの市の取組を紹介すると、平成27年度に関係者間の会議ではあるが、地域ケア推進会議で、地区社会福祉協議会、健康ボランティア（あおぞら会）、区・自治会（橋一ちょぼら隊）のそれぞれの代表の方と市からは福祉部長が登壇し、「地域の支え合い」をテーマにシンポジウムを開催したことがある。地域の中で展開している団体の委員の方に発言をいただければと思っている。

#### ●委員

内容がすでに練られており、団体も多く時間も限られているので、パネラーではなく1分位の団体紹介と、あまり知られていないと思われる協議体の目的、市の目指す方向性くらいにしてもよいのでは。

●委員長

活動内容を知らせる資料一覧を準備し、団体の代表を紹介するのはどうか。

●委員

委員長の話の趣旨をピンボケさせるようなことであってはならないので、資料一覧を作り、今、力を入れている活動の紹介をするのはどうか。

●委員長

話題が分散してしまうのではないか。まちづくりに特化した活動として、2、3行の活動報告を書いていただけの資料ではどうか、もう一度検討する。

●委員

このフォーラムを光るものにしなければならない。そのためのお手伝いはしたい。

●委員長

「広報なりた」の記載はいつになるのか。2月に行うとすれば広報は12月くらいになるのか。

○事務局

12月では早すぎるので年明けくらいではないか。フォーラムの日付は2月2日は確定ではなく、変更になる可能性もある。

●委員長

3月までにはやらなければならない。委員の方々の出席できる日程を考えなければならない。もう一度検討する。時間は長いと集まらないので、2時間くらいで検討していく。

●委員

ご近所買い物事情に関するアンケートの企業用はどこに配るのか。

○生活支援コーディネーター

住民のアンケートが終わって、結果をみて買い物ツアーなどのニーズが高ければ企業に配ることになる。

●委員

社会福祉法人などは大丈夫だと思うが、利益を目的とする株式会社など民間企業が送迎車を出すなどの協力は難しいのではないか

●介護保険課主幹兼係長

次回会議は平成 30 年 11 月頃の開催を予定。場所は決り次第、開催通知でお知らせする。